

# 埼玉アートシアター通信

NO. 25

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2010.1-2月号

蜷川幸雄インタビュー

## 2010年も多彩に繰り広げられる蜷川ワールド



Sainokuni Shakespeare Series  
**HENRY VI**

# INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.25 Jan.-Feb.

ESSAY 03 さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』

## 北村 薫

PLAY 04 蜷川幸雄インタビュー

## 2010年演劇ラインナップを語る

CINEMA 08 彩の国シネマスタジオ

## 1月～5月シネマラインナップ

DANCE 10 彩の国バレエ・ガラ

## ブベニチェクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち イリ・ブベニチェク インタビュー

DANCE 12 『ナイン・フィンガー Nine Finger』

## 池田扶美代 インタビュー

DANCE 13 トニー・リッツィ『Every Body Tells A Story』

## ファビアン・プリオヴィユ リサーチワーク

DANCE 14 バットシェバ舞踊団『MAX』

MUSIC 16 小菅 優の現在 Vol.2 アンサンブルの愉しみ

MUSIC 18 中村絃子 ピアノ・リサイタル

20 EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2010.1.15-2010.3.31  
前売りチケット発売情報(～2010.3.15)  
発売中公演情報

23 THEATER BRIDGE

募集など劇場からのご案内

24 劇場に遊ぶ、劇場で出会う



「作」福田善之「演出」蜷川幸雄  
「出演」さいたまネクスト・シアター 横田栄司 原康義 山本道子 妹尾正文 沢竜一  
10月15日(木)・11月1日(日) 彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター



きたむら かつお 1949年生まれ。早稲田大学ではミステリ・クラブ所属。母校埼玉県立春日部高校で国語を教える。1999年、『運命作家』として『龍馬』でデビュー。著書に『夜の舞(日本推理作家協会)』『秋の花(スキップ)』、『ニッポン硬貨の謎(本格ミステリ大賞評論)』、『ひとがたのし』、『龍馬三十五』など。『読者の待ち伏せ』、『読物』、『空短編』、『ここにあり』など評論やエッセイ、アンソロジーにも腕をふるっている。

さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』 2009年10月15日公演より

## 北村 薫

《泥だらけのなんとか》、あるいは、《泥まみれのかんとか》——  
という題の、小説や歌があります。何ごとかが、たとえられている  
わけです。  
しかし演劇とは不思議なもので、ひな壇のようになった観客席か  
ら、「この世を見下ろせ」といわれたごとく視線を送ると、具体的  
な《泥》の舞台がありました。これを、やわな抽象にしないのが『真  
田風雲録』の公演でした。  
この戯曲を読むたび、初演に間に合わなかった者の無念さを感じ  
ます。しかし今、若者の口から溢れる台詞を聴けば、それが半世紀  
近くの時を瞬時に越え、血の通った言葉として、ほとばしり出てい  
る——そのことに驚きます。書かれている、いわせられている台詞  
ではない。  
幕あいに口ビーに出た時、観客の靴の裏から剥がれ落ちた、煎餅  
ほどの泥を見ました。今の劇場では、普通、見ることの出来ない眺  
めです。  
さて2009年の今、自分の住まいの戸口からさいたま芸術劇場  
まで、土の地面を踏まずに来て、帰った人の方が、実は多いのでは  
ないか。それは一体、具体的なか抽象なのか——ふと、そう考えて  
しまいました。  
しかし間違いないことがあります。『真田風雲録』を知らない  
人には、わけの分からない表現になって、申し訳ありませんが、そ  
んな我々の耳がこの夜、《泥だらけのずんぱッ》を確かに聴いた、  
ということなのです。



# 2010年も多彩に 繰り広げられる



© 宮川舞子

新しい年も彩の国の演劇は熱い。  
すでに春の演劇界の話題をさらっている  
『ヘンリー六世』に始まり、

# 蜷川ワールド

12月のさいたまネクスト・シアター公演まで、ずらりラインナップが揃った。  
2010年も全開の蜷川幸雄が、熱い思いをかたる。

取材・文=徳永京子「演劇ジャーナリスト」  
play lineup 2010

## 2010年 演劇ラインナップ

- 3月11日(木)～4月3日(土)  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾『ヘンリー六世』
- 5月15日(土)～6月10日(木)  
『ムサシ』 ロンドン・NYバージョン
- 8月  
彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面2』(仮題)  
オックスフォード大学演劇協会(OUDS) 招聘公演
- 9月  
さいたまゴールド・シアター第4回公演
- 10月  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬ならし』
- 12月  
維新派『(彼)と旅をする20世紀三部作 #3』  
さいたまネクスト・シアター第2回公演

## 公共劇場の果たす役割

—— 彩の国さいたま芸術劇場は、年度ごとのテーマなどを決めませんね。そこに何か理由はあるのでしょうか。

テーマを設定することは、野心的なように見えて、劇場にお勉強の匂いを付けてしまうような気が僕はするんです。その年のテーマに興味がない人をはじき出すことになりはしないだろうか、とも。それよりも価値観が多様化されていることが、特に公共の劇場にとっては大切だと思うんですね。俳優を見たい人は俳優を見てくれればいいし、有名な作品をどう演出するのかに興味がある人は演出重視で見てくれればいい。この劇場は、そういう多層的な楽しみ方ができる劇場でありたいと考えています。テーマめいたものも実はあるんですが、志はひっそりと作品の奥に秘め、入口を広くしておきたいと思います。

—— 一方で、ここ数年でシリーズ化した公演も多く、観客にとって「さいたま芸術劇場らしさ」が定着し始めたのでは？

そうですね。シェイクスピア作品、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター、オリジナルの創作劇、そしてファミリーシアター的な意味合いの強い音楽劇という5本の柱が、この劇場のローテーションになってきています。これだけバラエティに富んだラインナップですから、お客さんのさまざまな欲望とどこかでクロスできればいいですね。

## 夏は家族で楽しめる 『ガラスの仮面』続編

—— 「多層化された楽しみを設定する＝演劇としてのハードルを下げる」ではないわけですね。

その通りです。夏に上演する『ガラスの仮面』はファミリーシアターですが、内容を子供向けにやさしくするものではありません。大人にとっても子供にとっても美味しい素材を提供するのであって、食べやすしたりはしませんよ。でも劇場でのマナーや舞台づくりの裏側などをこの公演から学んで、演劇に興味を持ってほしい。というのも、子供の頃からこの劇場に通い、この劇場を支持してくれる人達が育ってくれたらいい、と思うからです。劇場が存続するためには、子供から大人まで支持してもらわないと。



彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面』(2008年8月) © 大原狩行

—— その『ガラスの仮面』は一昨年の評判がよく、多くの観客を集めました。原作者の美内すずえさんも何度も足を運ばれ、舞台に刺激される形で連載が復活しましたね。

本当を言うと、まったく自信がなかったんです。「シリーズ化とは言ったけど、無理だぞ」と(笑い)。脚本の青木 豪さんが初めて組む作家さんで、彼が書いてきたものが、僕が今までやったことのない構造でしたからね。それで雨を降らせたり原作の絵をパネルにして出したり、いろんな手を総動員して四つ相撲を組みました。演劇が不思議だと思うのは、自分と脚本の間にある距離、隙間を何とか埋めようとする七転八倒の行為が、意外とお客様に喜ばれるというところなんですよ。より必死にやる熱意が何かを伝えるんでしょうね。

## 今年もやります、ゴールドとネクスト



さいたまゴールド・シアター「アンドゥ家の一夜」(2009年7月/開演前) © 宮川舞子

—— ゴールドでは「メンバーが高齢でせりふ覚えに時間がかかるのに、脚本がなかなか完成しない」、ネクストでは「演技力に合格点が出せるメンバーが少ない」という点で、やはり七転八倒されていました、どちらも高い評価が集まりました。

ゴールドに関しては、脚本を書き下ろしてくれた岩松 了さんとケラリーノ・サンドロヴィッチさんに本当に感謝しています。おふたりなしでは、この集団はこれだけ評価されていないでしょう。ゴールドのメンバーはプロの俳優さんとは違い、個人の歴史を背負って舞台上上がる人達で、自分の人生と作品のどこかがクロスした時に輝くんです。その人達にふさわしい脚本を書いてくださった。僕としては、彼らの記憶力や動きの悪さを、老いているのだからそれも人生の一部だと受け入れ、プロンプターが付いて当然だと考えるようになりました。つまり劇の概念を広げたわけですが、あとから「これは違う角度の演劇をつくりつつあるんじゃないか」という励みにもなりました。ネクストは、なかなか上手くならないで腹が立って稽古場で「頭から水かぶって顔に泥を付けて来い!」と言ったら、これがすごく良くて(笑い)。結局、舞台全部を泥にしました。足を取られて上手く動けないという物理的な負荷が、彼らの必死さどう



さいたまネクスト・シアター「真田風雲録」(2009年10月) © 宮川舞子

まく重なったと思います。ただ、同じような荒業は二度は使えないので、これから必死に上手くなってもらわないと。

## 歴史劇と喜劇、2本のシェイクスピアと『ムサシ』凱旋公演

—— 直近では上演6時間の「ヘンリー六世」、秋には同じシェイクスピアでもコメディの『じゃじゃ馬ならし』が控えています。

『ヘンリー六世』はシリアスで、『じゃじゃ馬ならし』はオールメール・シリーズ(女性役も男優が演じる)でキッチュにやります。『じゃじゃ馬〜』は、まだ言えませんが素敵な俳優さんの出演が決まっています。『ヘンリー六世』は、この劇場にはシェイクスピア企画委員会という組織があって、そこから「そろそろ歴史劇を」という話が出ました。それで僕が、松岡和子さんに翻訳を、河合祥一郎さんに構成をしてほしい、とリクエストしたんです。今をときめく翻訳家と英文学者の二人が協力しあうなんて、すごくダイナミックなことだと思いませんか。同じ演目を昨年秋に新国立劇場が上演して評判を取りましたが、僕はそういう状況があると「そっちに負けない良い作品をつくるぞ」と一層燃えるんです(笑い)。そのために考えたのは対面式の客席をつくる、できれば舞台を双方向から観られる形にしたいと。観客にはさまれて逃げ場がなくなると俳優はすごく良くなることは、昨年の11月に『十二人の怒れる男』(シアターコクーン)でやって実感しました。彩の国さいたま芸術劇場ではまだやったことがないので、ぜひその形で行こうと思います。

—— 春には、やはり昨年、大いに劇場を沸かせた『ムサシ』が上演されますね。

ロンドンとニューヨークで上演しての凱旋公演というのがいいですよ。今回、佐々木小次郎役を勝地 涼さんがやってくれるんですが、彼には『シブヤから遠く離れて』(04年)や『カリギュラ』(07年)に出てもらって実力はわかっていますから、その点は安心しています。夢幻能の構造や非戦の精神など、井上ひさしさんがこの作品に込めたものをどれだけ海外の観客に伝えられるか、そこは緊張しています。

### ヘンリー六世 Henry VI Cast

上川隆也 (ヘンリー六世) 大竹しのぶ (ジャンヌ・ダルク/マーガレット)  
 高岡蒼甫 (リチャード) 池内博之 (サフォーク伯爵) 長谷川博己 (シャルル)  
 草刈民代 (グレイ夫人エリザベス) 吉田鋼太郎 (ヨーク) 嵯川哲朗 (クロスター公爵)



高岡蒼甫 たかおか そうすけ  
 1999年TVドラマデビュー後、映画『バッチギ!』『クローズ ZERO』『ちゃんと伝える』、ドラマ『交渉人〜THE NEGOTIATOR〜』『ROOKIES』など数多くの映画やドラマで活躍する。舞台は2006年に上演された『WEE THOMAS』以来4年ぶりの出演であり、蜷川幸雄演出舞台には本作品にて初出演となる。映画『猿ロック THE MOVIE』『産声市 THE LAST』『十三人の刺客』などの出演作品が本年公開予定。



草刈民代 くさかり たみよ  
 8歳でバレエを始め、16歳から牧阿佐美バレエ団に参加。18歳で主役デビューののち、同バレエ団の主役を次々と務めた。日本を代表するプリマバレリーナとして国内外の舞台に出演し、数々の賞を受賞する。96年映画『shall we ダンス?』に出演し、その年の映画賞を多数受賞した。09年バレエダンサーを引退後、女優に転向。9月に舞台『宮城野』(鈴木勝秀演出)に出演。今作品が2度目の演劇公演の出演となる。



上川隆也 かみかわ たかや  
 1989年より昨年7月まで演劇集団キャラメルボックスに在籍し、数多くの作品に出演。95年NHK70周年記念ドラマ『大地の子』主演を皮切りに映像でも活躍。近年の主な出演作に、舞台『蛮鬼』『ウーマン・イン・ブラック』『その男』、TVドラマ『白い巨塔』『功名が辻』『赤鼻のセンセイ』、映画『嵐の城』『バコと魔法の絵本』『私は貝になりたい』など。蜷川幸雄演出作品には08年の『表裏源内蛙合戦』以来、2度目の出演である。



池内博之 いけうち ひろゆき  
 1997年『ドリームスタジアム』で映画デビュー。その後も映画、ドラマ、舞台などジャンルで活躍し、2006年には映画『13の月』で監督デビューも果たす。08年サモ・ハン・キンポーがアクション監督を務め、ドニー・イェンなど中国を代表する俳優が出演した『葉問』で香港映画に初出演し、見事なアクションを披露している。蜷川幸雄演出作品には08年の『リア王』、09年の『コースト・オブ・ユートピア』に続いて3度目の出演となる。



吉田鋼太郎 よしだ こうたろう  
 シェイクスピア・シアター、東京巻組を経て、1997年に劇団 AUN を結成する。蜷川幸雄演出作品に数多く出演し、なかでも『タイタス・アンドロニカス』『オセロ』ではタイトルロールを演じた。その他、栗山民也、長塚圭史、G2など様々な演出家の舞台で活躍。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。2010年夏には小栗旬初監督映画『シュアリー・サムデイ』が公開される。



大竹しのぶ おおたけしのぶ  
 1975年に映画『青春の門 筑豊編』でデビュー。その圧倒的な存在感から世代を超えた支持を受け続け、舞台、映画、TV、音楽等ジャンルを問わず相次いで話題作に出演し、主要な演劇賞を多数受賞。蜷川幸雄演出作品では、『メディア』『マクベス』『エレクトラ』『パンドラの鐘』に出演。近年の主な出演作は『グレイ・ガーデンズ』『ザ・ダイバー』『桜姫』『女教師は二度抱かれた』『スウィーニー・トッド』など。



長谷川博己 はせがわ ひろき  
 文学座出身。在団中からロバート・A・アッカーマン、永井愛、川村毅、マキノノゾミ、ルネ・ボルシュ、鈴木勝秀といった著名な演出家の外部公演に多数出演。08年にTVドラマ『四つもの嘘』に出演して以来、映像にも活躍の場を広げる。蜷川幸雄演出作品には05年の『KITCHEN』に出演して以来、作品ごとに重要な役を演じ、09年には『冬物語』『コースト・オブ・ユートピア』に出演している。



嵯川哲朗 さがわ てつろう  
 劇団青俳出身。退団後はドラマ、映画、舞台と幅広く出演。ドラマ『大江戸捜査網』に1970年から15年にわたり出演する他、声優としてクリント・イーストウッドやジョン・コネリーなど多くの名優の吹替えを担当した。近年は舞台を中心に活躍しており、特に蜷川幸雄演出舞台には欠かせない存在である。近作として『コロレライナス』『エンディ』『リア王』から騒ぎ『冬物語』『コースト・オブ・ユートピア』などがあがる。

●●●●● PLAY ●●●●●

彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾『ヘンリー六世』

【日時】3月11日(木)～4月3日(土) 全15公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W. シェイクスピア 【翻訳】松岡和子 【構成】河合祥一郎

【出演】上川隆也 大竹しのぶ 高岡蒼甫・池内博之・長谷川博己 草刈民代 吉田鋼太郎 嵯川哲朗 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

通し券 一般:S席19,000円/A席15,000円/B席11,000円/学生B席6,000円  
 メンバース:S席18,000円 ※メンバーズ割引はS席のみ

3月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	4月	1	2	3
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
13:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

※本公演は前編・後編あわせて1日通し公演、上演時間は約6時間の予定です(休憩除く)。  
 ※本公演はメンバーズポイント対象外となりますので予めご了承ください。

### ムサシ ロンドン・NYバージョン MUSASHI Cast



藤原竜也 ふじわら たつや  
 1997年『身毒丸』で初舞台を踏む。以後『ハムレット』『近代能楽集』など数々の蜷川演出舞台に出演。また野田秀樹演出『オウル』『ロープ』、栗山民也演出『かもめ』などの舞台や、映像でも活躍しており、映画『デスノート』『カイジ』は大ヒットを記録した。2004年には紀伊國屋演劇賞個人賞、朝日舞台芸術賞寺山修司賞、読売演劇賞優秀男優賞・杉村春子賞など、数々の賞を受賞。今年は2月に主演映画『ハレード』の公開が控えている。



六平直政 むさか なおまさ  
 劇団状況劇場を経て、87年新宿梁山旗揚げに参加。映像、舞台を問わず幅広く活躍している。伊丹十三監督、深作欣二監督映画に数多く出演する。近年の主な出演映画作品に『アレキスと亀』『私は貝になりたい』『20世紀少年第2章・第3章』『GOEMON』『花の生涯〜梅蘭芳』ほか。また『魔王』『JIN-仁-』などテレビドラマも多数。舞台に、蜷川幸雄演出では『マクベス』『欲望という名の電車』『葦原校校』『表裏源内蛙合戦』『冬物語』ほか。



勝地 涼 かつぢ りょう  
 2005年『亡国のイージス』で第29回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。映画『リリイ・シュシュのすべて』『空中庭園』『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』『少年メリケンサック』、TVドラマ『四つもの嘘』大河ドラマ『篤姫』など多くのヒット作へ出演。舞台出演作品は『シブヤから遠く離れて』『KITCHEN キッチン』『カリギュラ』のうえ歌舞伎『野蜂峠』ほか。2010年夏には小栗旬初監督映画『シュアリー・サムデイ』が公開予定。



吉田鋼太郎 よしだ こうたろう  
 シェイクスピア・シアター、東京巻組を経て、1997年に劇団 AUN を結成する。蜷川幸雄演出作品に数多く出演し、なかでも『タイタス・アンドロニカス』『オセロ』ではタイトルロールを演じた。その他、栗山民也、長塚圭史、G2など様々な演出家の舞台で活躍。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。2010年夏には小栗旬初監督映画『シュアリー・サムデイ』が公開される。



鈴木杏 すずき あん  
 96年に『金田一少年の事件簿』でドラマデビュー。映画界でも目覚ましい活躍を見せ、『Returner リターナー』では第26回日本アカデミー賞新人俳優賞と話題賞をW受賞。若手トップ女優の一人として幅広く才能を発揮し続けている。また、03年に『奇跡の人』のヘレン・ケラー役で初舞台を踏んだ。主な舞台出演作品に『ハムレット』『鶴舞城の七人』『白夜の女騎士』『SISTERS』ほか。映画では『花とアリス』『監督ばんざい!』『椿三十郎』など。



白石加代子 しらいし かよこ  
 早稲田小劇場(SCOT)にて数々の伝説的舞台に主演し、89年に退団後は舞台を中心に映像でも活躍する。蜷川幸雄演出作品では『夏の夜の夢』『身毒丸』『クリュークス』『ベリクリュークス』『天保十二年のシェイクスピア』などに出演。そのほか宮本重門演出『メアリー・スチュアート』、野田秀樹演出『虎〜国姓爺合戦』、野村萬斎演出『国盗人』、長塚圭史演出『ビューティークイーン・オブ・リナーン』など、現代を代表する演出家の作品に出演。

●●●●● PLAY ●●●●●

『ムサシ』ロンドン・NYバージョン

【日時】5月15日(土)～6月10日(木) 全32公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【作】井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より) 【演出】蜷川幸雄 【音楽】宮川彬良

【出演】藤原竜也 勝地 涼 鈴木 杏 六平直政 吉田鋼太郎 白石加代子 ほか

【チケット(税込)】一般・メンバーズ:S席10,500円/A席8,500円

【発売日】一般:2月20日(土) メンバース:プレオーダー1月23日(土)～2月1日(月)

5月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
12:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
13:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
17:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

※本公演はメンバーズポイント対象外となりますので予めご了承ください。  
 ※一般発売初日の各館(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)での窓口販売はございませんので、予めご了承ください。  
 ※プレオーダー詳細は同封のプレオーダーシートをご覧ください。

# 観るだけではない、 トークで映画の印象が さらに奥深いものに

## SAINOKUNI CINEMA STUDIO

文=金子裕子 [映画ライター]

最新の映像技術を駆使した超大作、たとえば画面から登場人物が飛び出すような3D映像のSF作品などを大きなスクリーンで観るのも、映画のひとつの醍醐味です。そんなときは、「観るぞ!」の意気込みで映画館へ。

でも、それとは別に、もっと気軽に。ちょっとした散歩の途中でふらりと寄り道感覚で、映画館に足を向け、思いがけない拾い物の作品に出合うなんていうのも、また、嬉しいものです。そんな時に観るのは、やはり作り手の思いが丹念に込められたものが、いいかな。もちろん、映像も流行りのコンピュータ・グラフィックを多用してない、実写の美しさや迫力を味わえたら、なお嬉しい。

彩の国さいたま芸術劇場の映像ホールでは、毎月『彩の国シネマスタジオ』を開催しています。質の高い、心に響く作品を選んで上映。まさに散歩の途中の寄り道を、いっそう楽しいものにしてくれるでしょう。また、このシネマスタジオでは、もうひとつのお楽しみとしてトークコーナーがあります。客席数150席というこじんまりした雰囲気も、かえってじっくり物語にひたるには、もってこいの空間かもしれません。

彩の国さいたま芸術劇場・映像ホールでのシネマ鑑賞は、何かとても心豊かなひとときを過ごせる  
“私(たち)だけの贅沢な時間と空間”といえる。  
今年も彩の国シネマスタジオは、選りすぐった内外の映画を上映。すてきなシネマの世界が、あなたをお待ちしています。



1 『ディア・ドクター』 ©2009 [Dear Doctor] 製作委員会



2 『未来の食卓』



3 『人生に乾杯!』 ©M&M Films Ltd.



4 『空気人形』 ©2009 素田良家 / 小学館 / 『空気人形』製作委員会 写真 / 瀧本幹也



5 『パリ・オペラ座のすべて』 ©Ideale Audience - Zipporah Films - France 2009 Tous droits reserves - All rights reserved

## 粒よりの作品が揃った1月から5月のラインナップ

たとえば、主人公の医者演じた落語家の笑福亭鶴瓶が<演技開眼>と評価を受けた『ディア・ドクター』は、山あいの小さな村が舞台。村人たちに頼りにされていた医者の秘密が明らかになっていく過程で、嘘をつくことの残酷さと、優しさをていねいに、ちょっとスリリングに描いています。八千草薫が演じる患者と医者、家族にも劣らない絆など、心に染みるばかりです。それにしても、八千草薫の老いても変わらない美しさと愛らしさにびっくりです。

同じ日本映画でも『空気人形』は、空虚な現代に生きる人々の孤独な心を浮き彫りにしたラブ・ファンタジー。冴えない中年男が癒しを求めて抱いていた空気人形(つまりはダッチワイフです)が、ひょんなことから心を持ってしまい、外に出て恋をするという展開。エロティックな描写もありながら、幻想的な映像とユーモアを織り込んで、独特の世界観をつくる是枝裕和監督。さすが、『誰も知らない』などで国際的な評価を得た

だけのことはあります。また、ヒロインの空気人形を演じた韓国女優ベ・ドゥナの体当たり演技も注目です。

フランス映画の『未来の食卓』はドキュメンタリーですが、大上段に構えたテーマではなく、私たちに身近な<食>を考えた内容。心と体の健康を保つために、南フランスの村の人々が、学校給食のオーガニック化に取り組む姿を追いかけたもの。食への意識が高まる子供たちに大人たちが教えられる場面などほほ笑ましくも、ハッとさせられます。もしかして、映画館の帰り道で、思わずオーガニックの食材を手にとってしまうでしょう。

帰り道といえば『人生に乾杯!』は、見終わったあとにニマリ笑顔がこぼれるかも。まだ社会主義だった1950年代のハンガリーで出会い、恋に落ちて結婚したエミルとヘディ。いまでは81歳と70歳になった2人に、年金生活の金銭的な歪みが生じます。そこで生活をするために、2人は<紳士的な強盗>をし続けることに。多くの人々を巻き込んだ逃避

行は、愛と笑いにも満ちていて、なんだか元気いっぱい。“くよくよせずに、頑張るかなあ”と、思わず元気にさせられてしまうのです。

そして、『パリ・オペラ座のすべて』は、芝居やダンス公演も盛んな彩の国にふさわしい作品でもあります。なにしろ、世界最古のパレエ団、パリ・オペラ座の内部に84日間も密着して、エトワールと呼ばれるトップダンサーの創作過程と、スタッフたちの献身的な姿を浮き彫りにしたドキュメンタリー。あの華麗なステージの影にこんなにも地道な努力があるのかと知れば、バレエへの興味もさらに湧いてくるというものです。

さて今日は、どんな新しい世界を体験できるのか、どんな人に、どんな人生に出会えるのか……。なにげない日常のなかで、そんな期待をちょっぴり膨らませてくれるのが、映画のいいところ。億劫がらずに、暗い空間に座ってみてください。一度、その楽しみを味わったら、きっと病みつきですから。

●●●● CINEMA ●●●●

### 1 『ディア・ドクター』

【日時】1月29日(金) 14:35 / 18:20  
30日(土) 9:50 / 13:15 / 16:15 / 19:30  
31日(日) 10:00 / 13:45 / 17:45

※29日(金)14:35上映回は、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。

※31日(日)13:45上映回終了後、映画評論家 田島良一氏によるアフタートークがあります。

【監督・原作・脚本】西川美和  
【出演】笑福亭鶴瓶 瑛太 余貴美子 井川遥 香川照之 八千草薫 ほか (2009年/日本/127分)

### 2 『未来の食卓』

【日時】2月19日(金) 10:20 / 13:30 / 16:20 / 19:20  
20日(土) 9:50 / 13:10 / 16:30 / 19:20  
21日(日) 9:50 / 13:10 / 16:30

※各日初回上映終了後、ピストロやま 山田正三氏によるミニトークがあります。

※20日(土)13:10上映回終了後、映画評論家 石子順氏によるアフタートークがあります。

※21日(日)13:10上映回終了後、米工房ひろおか 廣岡幸子氏によるアフタートークがあります。

【監督】ジャン＝ポール・ジョー (2008年/フランス/112分)

### 3 『人生に乾杯!』

【日時】3月12日(金) 10:20 / 13:30 / 16:10 / 19:10  
13日(土) 9:50 / 13:00 / 15:40 / 18:30  
14日(日) 10:30 / 13:40 / 17:00

※14日(日)13:40上映回終了後、映写技師 鈴木文夫氏によるアフタートークがあります。

【監督】ガール・ロホニ

【出演】エミル・クレシュ テリ・フェルディ ユディト・シエル  
ゾルターン・シュミエド ほか (2007年/ハンガリー/107分)

### 4 『空気人形』

【日時】4月9日(金) 13:20 / 16:10 / 19:00  
10日(土) 9:50 / 13:10 / 16:35 / 19:25  
11日(日) 10:30 / 14:05 / 17:10

※10日(土)13:10上映回終了後、映画評論家 石子順氏によるアフタートークがあります。

【監督・脚本・編集】是枝裕和 【出演】ベ・ドゥナ ARATA 板尾創路 ほか (2009年/日本/116分)

### 5 『パリ・オペラ座のすべて』

【日時】5月14日(金) 10:20 / 14:30 / 18:05  
15日(土) 10:20 / 14:30 / 18:05  
16日(日) 10:30 / 14:30

※16日(日)14:30上映回終了後、舞踊評論家 長野由紀氏によるアフタートークがあります。

【監督】フレデリック・ワイスマン (2009年/フランス・アメリカ/160分)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【料金】一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円  
シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円

## ★シネマスタジオ、もう一つのお楽しみ★

彩の国シネマスタジオのもう一つのお楽しみ、それは多彩なゲストをお迎えするトークコーナーです。映画の余韻に浸っていると、「もっとこの映画のことを知りたい!」なんてことがありますよね。シネマスタジオでは上映期間中に1回ほど、作品の内容に合わせて映画監督や評論家をゲストにお迎えし、劇場の中で語っていただきます。小さな劇場ならではの気取らないトークは、映画の新しい魅力を発見するきっかけになるかもしれません。





## ヨーロッパ現代バレエの新しい息吹を感じる

クラシックから現代バレエ作品まで幅広いレパートリーに積極的に取り組み、ヨーロッパのみならず世界が注目するドレスデン国立歌劇場バレエ団。スターダンサーにして期待の若手振付家、イリ・ブベニチェク。イリ、双子の弟オットー、そしてドレスデンの選抜ダンサーが新春の彩の国の舞台を飾る。

### Interview イリ・ブベニチェク

聞き手= 立木輝子 [舞踊評論家]

「2005年まで在籍したハンブルク・バレエ団のスター・ダンサーとして、日本でも大きな注目を集めてきました。」

ハンブルク・バレエ団は、13年間私にとっての我が家でした。『ニジンスキー』のヴァーツラフ・ニジンスキー役など、ノイマイヤー氏と創作を共にした時間は素晴らしいものでしたし、ダンサーとしては何もかも手に入れてとても幸せだったと言えます。けれど、クリエイティブな若手振付家として、ハンブルクを去り、もっと学ばなければならないと感じました。異なる人々やアーティストと仕事をし、学ぶこと。私にとっては、常に心が開かれていてクリエイティブであることが重要なのです。

—— 新生ドレスデン国立歌劇場バレエ団の印象は。

ドレスデンへ移った最初のシーズンは、新しく就任したディレクターのアロン・S・ワトキン氏、またバレエ団の半数が新たに加入したダンサーだったので、カンパニー全体が新たなスタートを切ること胸を躍らせていました。ドレスデンは今でもクラシックのバレエ団ですが、コンテンポラリーの作品も以前より多く上演しています。ワトキン版の『白鳥の湖』など古典作品に加え、バランシンの洗練されたレパートリー、またコンテンポラリーの振付作品、特にウィリアム・フォーサイス、イリ・キリアン、ヨハン・インガーなどの作品も多数上演しています。非常に豊かなレパートリーで、ダンサーにとってもドレスデンの観客にとっても満足のいくものになっているのではないのでしょうか。

### 文字通りの俊英たちの競演

—— 今回のプロジェクトについてお話をいただけますか。

まず、(通常のガラ公演のような)デュエットやバリエーションだけでなく、一つの作品をまるごと上演するプログラム構成になっています。私自身の創作による2作品『辿り着かない場所』、『ル・スフル・ドゥ・レ

# Bubeníček & the Dresden SemperOper Ballett

彩の国バレエ・ガラ ブベニチェクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち



©J.Flugel



©Costin Radu

スプリ「魂のため息」と、ウィリアム・フォーサイスの見事な振付『ステップテキスト』を準備しています。ほとんどのダンサーはドレスデン国立歌劇場バレエ団のダンサーです。クラシック・レパートリーを踊ることができ、同時にコンテンポラリー作品でも見事なパフォーマンスができる、才能溢れる若手アーティスト達です。そして、もちろん、私の双子の弟であるハンブルク・バレエ団のオットー・ブベニチェク。皆さんは、彼の踊りに加え、彼の音楽、衣裳デザイン、舞台デザインも楽しむことができるでしょう。

—— 彩の国での上演作品についてお話をいただけますか。

観客のみなさんにそれぞれの物語を創り出す可能性を残したいので、自分の振付について説明するのは好きではないのです。私が解釈するとその可能性をみなさんから奪うことになるから。でも、少しだけ話すと——『辿り着かない場所』は、関係の中で変化していく愛、憎しみ、喜びといった感情を表現した作品です。

『レスプリ』は非常に個人的な作品。2人の祖母が亡くなった時、残念ながら私はさよならを言うことができませんでした。しばらくして、レオナルド・ダ・ヴィンチの1枚の絵に出会い、突然、2人の祖母が脳裏に浮かびました。その絵にはたくさんの愛が込められているように感じたのです。これが2人の祖母に別れを告げる方法なのだと悟りました。オットーにその絵を見せたところ、彼も同じ感情を持ちました。ここから、一つの構想、複数の動き、衣裳、舞台、そして最終的には全体の振付が生まれたのです。

そしてフォーサイス氏による最高傑作の一つ『ステップテキスト』。彼はドレスデンのダンサーのために特別ヴァージョンを創作しました。(通常版とは)始まり方、また作品中の即興部が異なります。3人の男性ダンサーと、エレナ・ヴォストロティナという女性ダンサーによって踊られます。エレナはキーロフ・バレエ団(現マリインスキー・バレエ)を経て、現在はドレスデンでファースト・ソリストを務めています。非常に力強いダンサーです。彼女がこのプロジェクトの一員であること、そしてこの作品で初めて彼女を日本に紹介できることを、誇りに思っています。

### Profile

#### イリ・ブベニチェク Jiri Bubeníček

ドレスデン国立歌劇場バレエ団 プリンシパル 振付家  
ポーランド生まれ、チェコ国籍。ブラハ音楽院でバレエを学び、1992年ローザンヌ国際バレエ・コンクールに入賞し、93年ハンブルク・バレエ団入団。97年プリンシパルに。ノイマイヤー作品での主立った役の他、バランシン、マッツ・エック、イリ・キリアン、オチョ・ドゥアトなどの作品を踊る。2006年にドレスデン国立歌劇場バレエ団にプリンシパルとして移籍。またフリーランスの振付家として、09年5月にニューヨーク・シティ・バレエ団に『Toccatà』、07年、チュリッヒ・バレエ団に『ル・スフル・ドゥ・レスプリ 魂のため息』、05年、ハンブルク・バレエ団に『辿り着かない場所』などを提供。また、パリ・オペラ座バレエ団をはじめ、他のバレエ団への客演も多い。10年2月には、パリ・オペラ座の招聘で、オレリー・デュボンと『婚姫』を踊ることも決定している。



#### オットー・ブベニチェク Otto Bubeníček

ハンブルク・バレエ団 プリンシパル 作曲家  
ポーランド生まれ、チェコ国籍。ブラハ音楽院でバレエを学び、1993年ローザンヌ国際バレエ・コンクールに入賞し、93年ハンブルク・バレエ団入団。97年プリンシパルに。ノイマイヤー作品で主立った作品の他、バランシン、マッツ・エック、ピエール・ラコット、アシュトなどの作品のソロを踊る。バレエ団以外でも、各地のガラ、フェスティバルに招待されている。また作曲家としても活躍しており、双子の兄弟のイリ・ブベニチェクのバレエ作品『Toccatà』『ル・スフル・ドゥ・レスプリ 魂のため息』(2007年)、『辿り着かない場所』(2005年)に楽曲を提供している。



#### カテリーナ・マルコフスカヤ Katherina Markowskaya

ドレスデン国立歌劇場バレエ団 ファースト・ソリスト  
ウクライナ、キエフ生まれ。キエフ国立バレエ学校、ミュンヘン・バレエ・アカデミーでバレエを学ぶ。1996年、ドレスデン・バレエ団に入団。2007年よりファースト・ソリスト。



#### エレナ・ヴォストロティナ Elena Vostrotina

ドレスデン国立歌劇場バレエ団 ファースト・ソリスト  
ロシア、サンクト・ペテルブルグ生まれ。ワガノフ・バレエ学校でバレエを学ぶ。2006年、キーロフ・バレエ団(現マリインスキー・バレエ)から、ドレスデン国立歌劇場バレエ団に入団。07年よりファースト・ソリスト。02年、ワガノフ・バレエ・コンクール・ロシア新人賞、09年、ダンス・ヨーロッパ・マガジン・女性ダンサー部門の最優秀ダンス賞。『ドレスデンのシルヴィ・ギエム』とも称される。



#### ヨン・ヴァイエホ Jon Vallejo

ドレスデン国立歌劇場バレエ団 セカンド・ソリスト  
スペイン生まれ。2006年ドレスデン国立歌劇場バレエ団に入団。2009年ダンス・ヨーロッパ・マガジン・男性ダンサー部門の最優秀ダンス賞。



#### 浅見絃子 あさみ ひろこ

ドレスデン国立歌劇場バレエ団 コリフェ  
大塚礼子バレエ・スタジオ、パリ・オペラ座バレエ学校でバレエを学ぶ。下村由理恵バレエ・アンサンブルから、2006年ドレスデン国立歌劇場バレエ団に入団。また、ゲスト・ダンサーとして、ニューヨークの[YAGP10周年ガラ]、新国立劇場主催(東京)『バレエ・アステラス2009』にも出演。

プロフィール写真(マルコフスカヤ、ヴォストロティナ、ヴァイエホ) ©Costin Radu

### ●●●● DANCE ●●●●

## 彩の国バレエ・ガラ ブベニチェクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち

[日時] 1月23日(土) 開演 15:00 / 24日(日) 開演 15:00

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演目] 『ル・スフル・ドゥ・レスプリ 魂のため息』(振付:イリ・ブベニチェク)  
『ステップテキスト』(振付:ウィリアム・フォーサイス)  
『辿り着かない場所』(振付:イリ・ブベニチェク) ほか

[出演] イリ・ブベニチェク オットー・ブベニチェク ヨン・ヴァイエホ  
カテリーナ・マルコフスカヤ エレナ・ヴォストロティナ 浅見絃子 大石裕香 ほか

[チケット(税込)] 好評発売中

一般:S席8,000円/A席6,000円/学生A席3,500円  
メンバーズ:S席7,200円/A席5,400円



## 『ナイン・フィンガー』に出会うあなたに 池田扶美代からのメッセージ

2009年11月の彩の国でのローザ公演にも  
参加した池田扶美代に、2月待望の公演の前に  
『ナイン・フィンガー』に向けてのお話を伺った。

### ■オリジナル作品はこうしてできた

まず3人のスケジュールをあわせるのに2年近くかかりました。旧知のアラン・プラテルと共演者ベンヤミンとカフェなどで会って、まずはおしゃべりから。でも具体的な題材はなかなかでなかった。最初のリハーサルの日、ベンヤミンが「今僕これを読んだばかりで、夜も眠れないくらいショックを受けているんだ」と1冊の本(『ピース・オブ・ノー・ネイション(国を持たない野獣たち)』ウゾディンマ・イウエアラ著)をもってきた。私たちがそれを読んで共感し、その本をどのように受け入れるかの話し合いのなかで作品をつくっていききました。

その頃世界で大きな津波やハリケーンが起きていて、自然の大きな力が何かを私たちに感じさせていた。どうしてもできない現象が、目に見えない塵のようにだんだん集まって、ハッと気がついたら外は大変なことになっている、そんなことをやりたいねと話していたのですが、その本はそのイメージに近いところがあったのです。

### ■テキスト、言葉表現する

創作過程で言葉を動きでどういうふうに表示しようかという問題に突き当たりました。絶対やりたくないと思ったのは、トランスレーション。ある言葉をベンヤミンが発したら、それをマイムするようなことはしたくなかった。私は私で、ちゃんと完結したものがないといけなかったんです。例えば私がコップを表現するとき、コップだといって見せる必要はないということです。

### ■作品がメッセージではなく、感じたことがメッセージ

この舞台は残酷だという言葉で表現されがちなのですが、残酷さは本当に各自の経験によるんですね。だから絶対に同じじゃない。各自どう思うか、どう感じたかということに直面してもらいたい。たぶん消化するのにまずぐ時間がかかると。この作品に対してどう思うかだけではなくて、作品を観たから自分がどう消化するのか、という各自にかえてきてしまう作品です。それを隠さないで、受け入れて欲しい。作品がメッセージなのではなく、各自が感じ取ったものがメッセージになると思うので、観た人の数だけメッセージがある作品です。



池田扶美代 いけだ ふみよ  
1979年、モーリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)に入学。同校でアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルと出会い、83年、ともにローザ結成。以来、ほぼ全ての作品の創作に携わり、出演。またステイヴ・バクストンの舞台を始め、ジャンルを超えて映画や演劇にも活動を広げる。2009年6月には、イギリスの脚本家・演出家ティム・エッチェルとのコラボレーションにより「in pieces」を創作している。

### ●●●● DANCE ●●●●

池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク  
『ナイン・フィンガー Nine Finger』

【日時】2月6日(土) 開演 16:00 / 7日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ナイン・フィンガー Nine Finger』(2007年初演)

【構成・演出・振付・テキスト】池田扶美代 アラン・プラテル ベンヤミン・ヴォルドンク

【出演】池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク

【チケット(税込)】好評発売中  
一般:4,000円 学生:2,500円 メンバース:3,600円

※各日公演終了後、出演者によるポスト・トークあり。

Photo:大原発行



Tony Rizzi

## ——トニー・リッツィの自分史と出会いの数々 『Every Body Tells A Story』

【作品紹介】

『Every Body Tells A Story エヴリ・ボディ・テルズ・ア・ストーリー』はフランクフルトで20年を過ごしたトニー・リッツィが、ボストンのサイバー・アート・フェスティバル(2007年)に委嘱され創作したパフォーマンス作品。アーティストとしてヨーロッパで自らのアイデンティティを模索してきた彼の日々を映し出す。数々の病気、思い出、訪れた町の名前が列挙され、20年間踊ってきた劇場の掃除婦の独白へと至る。マリオ・ザンブラノがこの若いアーティストの分身を演じている。ダンス、映像、台詞を駆使して、リッツィは一つの問いに答えようとする。「僕たちは違うのか、それとも同じなのか?」

今回の公演ではさいたま特別ヴァージョンとして、舞台、テレビ、映画と大活躍中の俳優八嶋智人と、ドイツを拠点に活動する日本人ダンサー谷よう子が参加する。

トニー・リッツィ (ダンサー・振付家)

ボストン出身。1985年~2003年、ウィリアム・フォーサイス率いるフランクフルト・バレエのプリンシパル・ダンサー及びアーティスト・アドバイザーとして活躍。振付家としても英国ロイヤル・バレエ、ボストン・バレエ、フランクフルト・バレエなどに作品を提供。自身のカンパニー「MOVING PRODUCTIONS」での創作活動のほか、俳優、ヴィジュアル・アーティストとしても異才を放つ。

### ●●●● DANCE ●●●●

トニー・リッツィ  
『Every Body Tells A Story  
エヴリ・ボディ・テルズ・ア・ストーリー』

【日時】3月13日(土) 開演 15:00 / 14日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【演出・振付】トニー・リッツィ

【出演】トニー・リッツィ 八嶋智人 マリオ・ザンブラノ 谷よう子

【チケット(税込)】一般:3,000円 学生:2,000円 メンバース:2,700円

【発売日】一般:1月30日(土) メンバース:1月22日(金)



Fabien Prioville

## ——ファビアン・プリオヴィユ リサーチワーク公開

【作品紹介】

ヴッパータール舞踊団で踊り、振付家としてもピナ・バウシュがその実力を認めたファビアン・プリオヴィユ。いじめについて語り合い、動きを紡ぎ、ダンスによって日本の現代社会に切り込んだ意欲作「紙ひこうき」をともに創作した日本の少女たちと、再びリサーチワークに取り組む。テーマは「他者」との出会いによって彼女らの日常がいかにこじ開けられ、押し広げられていくか。「他者」に直面する14~20歳の少女たちが、恐れのないか、いかに反応しふるまうのか。普通の少女たちから発せられる手触りのある緊張を、舞台表現に昇華させようとする試みだ。オーディションで選ばれる俳優/ダンサーも参加し、リサーチ最終日には創作過程を公開する。

ファビアン・プリオヴィユ (ダンサー・振付家)

フランス生まれ。1995年、エドゥアール・ロックのLa La La Human Stepsに参加。99年からはヴッパータール舞踊団で「カフェ・ミュラー」を始めとする数々のピナ・バウシュ作品に出演。振付家としても各国で活躍し、日本でも2008年に発表した13~20歳の少女たちによる「紙ひこうき」が高く評価された。同作品はピナ・バウシュ国際ダンス・フェスティバルに招聘され話題を呼んだ。

### ●●●● DANCE ●●●●

ファビアン・プリオヴィユ  
リサーチワーク公開

【日時】3月28日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【演出・振付】ファビアン・プリオヴィユ

入場無料(要事前申込み) ※申込み方法、オーディションの詳細は、P23にて

他者との対面を舞台に昇華する試み

彩の国スタジオ・ダンスシアター

稽古場で実験的作品を上演・創作する企画



バットシェバ舞踊団

artistic director Ohad Naharin

Batsheva Dance Company

## 人気の振付家オハッドのマジックに酔う

世界の著名なバレエ団で引っ張りだこの人気振付家、オハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団がイスラエルからやってくる。公演の度に、新しい顔を見せるオハッド・マジック、今春上演の『MAX』にはどんな企みが……。現地で一足早く“MAX 体験”した乗越たかお氏のレポートをお届けする。

文=乗越たかお [作家・ヤサぐれ舞踊評論家]

日本でも人気の高いオハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団。初来日の1997年に3プログラムを一挙公演し、日本のダンスファンに強烈なインパクトを与えた。しかしその後、アンサンブル(バットシェバ舞踊団の若手カンパニー)の公演や、他のカンパニーによるオハッド作品の上演はあっても、本体のバットシェバ舞踊団の公演は、じつはそんなに多くはない。2度目の来日公演(2008年)『テロファーザ』までは11年という月日経ってしまった。しかし今回、時を置かずして彩の国さいたま芸術劇場で『MAX』を上演されるのは、大きな喜びである。

というのも、アーティストは刻々と変化しているからだ。当然、オハッド・ナハリンも変化があった。『テロファーザ』を観た人はわかるとおり、オハッド・ナハリンは、大量の椅子を使った雪崩のようなダンスの『アナフェイス』からは遠く離れたところに来ている。その間にオハッド・ナハリンには芸術監督を退いていた2年間があった。筆者は10年間、毎年テルアビブでのダンス・フェスティバルを訪れ、その変化を見守ってきた

# MAX

が、激しさよりも癒しをもたらすような、まるでリハビリを思わせるいくつかの作品(だがその魅力は減じることはない)を経て、再び彼の揺るぎないエネルギーを感じることができたのが、この『MAX』なのだった。

## 舞台空間全体がダンスする

『MAX』をテルアビブで見たのは2007年。本拠地であるスザンヌ・デラル・センターで毎年行われているインターナショナル・エクスポージャーというフェスティバルであった。ちなみに同センターは昨年20周年を迎えた。

暗い無音の舞台上には男女五人ずつのダンサーがいる。ラケフェット・レヴィによる衣装はシンプルなものだ。しかし彼らが、これというきっかけもなく、それでいて完璧にシンクロした挙動で「ふわり」と動くのである。その瞬間、ゆったりと観ていた観客の感覚は置き去りにされる。ワントempo置いて観客が知覚するのは、ダンサーの動きそのものよりも、舞台全体の空気がふわっと動く、不可視なはずのムーブメントである。自分が知覚したものが一体何なのか、認識できるまでにさらに数秒かかる。そしてその頃にはもうオハッドの魔術に取りこまれていたのだ。それは観る者の心の奥深くにまで入り込み、かつて味わったことのない仕方で揺さぶる。

後半にはオハッド・ナハリン自身の声によるカウントに合わせた動きの



シーンもある。いわば音ハメで、しばしば彼の作品に出てくるシーケンスではある。しかしそのハメ方がヒップホップのようにパチッと当てるのではなく、闇のなかに灯火をそっと置いてくるような、胸にしみるようなシーンとなっている。

良く通るオハッドの声はまるで祈りのように、厳格さと優しさをもって舞台を包む。「1、2、3……」と続いていくように聞こえるカウントは、途中から何語がよくわからなくなる不思議なものだが、これもオハッドによるデタラメな言語なのだった。

カンパニーのダンサーたちの素晴らしさも特筆するべきだろう。今はカンパニー全体が若返っている。バットシェバ舞踊団のダンサーたちは、オハッド・ナハリンが生み出した独自の身体訓練メソッド『GAGA(ガガ)』によって鍛えられ、動きの発想が独創的で、他に類を見ない。新しいことをやっているつもりでその実、小さな枠を出ることができない悩める若いダンサーたち、そういうダンスにウンザリしている人たちは、是非ともこのダンスを観てほしい(ちなみに『GAGA』は日本でも受けることができる)。

この『MAX』において、オハッド・ナハリンは、ダンサーのみならず、舞台空間全体を踊らせようとしているかのようである。ふわりとした直後にはシャープで冷たい風が吹くような時もある。観客の予断を裏切ったかと思うと、ふっと寄り添う。動きの快感、構成の妙、円熟したおパワーを失わないオハッド・ナハリンの真骨頂を味わってほしい。

### Profile

オハッド・ナハリン Ohad Naharin

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、ジュリアード音楽院で学ぶ。80年に振付家としてデビュー。90年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任し、『キール』(90年)、『マプルー(洪水)』の成功により評価を高める。1997年の初来日公演では、当劇場にて『ジーナ』を上演、話題を呼んだ。彼の作品はネザールランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団など世界の著名なバレエ団で踊られており、現在世界で最も注目される振付家の一人である。

●●●● DANCE ●●●●

### バットシェバ舞踊団『MAX マックス』

【日時】4月15日(木) 開演 19:30 / 16日(金) 開演 19:30  
17日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【振付】オハッド・ナハリン 【出演】バットシェバ舞踊団

【チケット(税込)】

一般:S席6,000円/A席4,000円/学生A席3,000円

メンバーズ:S席5,400円/A席3,600円

【発売日】一般:1月30日(土) メンバーズ:1月22日(金)



繊細にして自在、しなやかな美音と見事な構築力——  
 俊英ピアニスト・小菅 優が、その知性と感性を研ぎ澄ませておくる3年にわたる  
 シリーズ『小菅 優の現在』は共演陣も豪華。  
 9月6日『Vol.2 アンサンブルの愉しみ』を前に、その抱負を語っていた。

素晴らしき仲間たちと共に、  
 愛するシューマンの世界を極める。

取材・文=山野雄大

聴く者の耳を優しく澄ませてくれる繊細な弱音から、巨大なエネルギーも美しく響かせる大胆な表現まで、この若さにしてこの堂々自在は、凄い。——俊英ピアニスト、小菅 優はほんとうに好奇心豊かな勉強家なのだ。お会いするたびに、これから手がける作品について実に愉しそうに話してくれる。楽譜を読み込んでますます惚れ込んだ曲の魅力、研究書を熱心にひもといて見出した知見……。読書好きで映画好きという彼女が日々耕し続ける豊かな感性にとって、知識はまるで美食のようだ。

3月からスタートするシリーズ『小菅 優の現在』も、そんなはつらつとした彼女の感性と知性が熱く融けあうコンサートとなるだろう。もっか熱愛するドイツ・ロマン派の作曲家シューマンを軸に展開するシリーズ、デュオ&トリオ作品を披露するVol.1に続いて、6月のVol.2は『アンサンブルの愉しみ』。

弦楽四重奏には榎本大進、佐藤俊介(ヴァイオリン)、川本嘉子(ヴィオラ)、趙 静(チェロ)と世界的俊才たちが揃う。「呑み友達を集めたんです！ みんなグルメでお酒に強い人ばかり。シューマンもお酒強かったそうですから」と笑いながら、凄腕のメンバーばかりよく揃えたものだ。

「日本でもドイツでもけっこういろんなコンサートで重なるんです。静とは、小さい頃にお互いを聴くチャンスがあり、いつか共演しようと話をしていたのですが、ついにそれが実現します」と小菅 優も嬉しそう。「皆さん素晴らしい演奏家たちで、性格も音に現れててあったかいですよ。榎本大進君なんかも本番で変わる人で、対話を愉しめるし、繊細な音に絶妙な間のとりかた……」と共演者たちへの讃辞も尽きない。

このスーパー・アンサンブルで、いずれもシューマン室内楽の傑作《ピアノ四重奏曲》と《ピアノ五重奏曲》を取り上げる。「シューマンって何かを求めて落ち着かない、憧れ続けるようなところがありますよね。彼の常軌を逸した部分がよく出ている《四重奏曲》も、バランスを凄く考えて弾かないとシューマンの繊細さを聴けなくなってしまいます。詩的な室内楽曲でもオーケストラ的な重圧感がありますが、《ピアノ五重奏曲》になると、私のピアノ+弦楽四重奏曲、という厚みが出てきます。……友達の言葉ですが、弦楽四重奏をワインに例えると、第1ヴァイオリンがコルクで、チェロが瓶。第2ヴァイオリンとヴィオラがワイン(笑)。内声が大事ですし、ピアノの中も多声的なんです。私がよく聴いて弾かないといけない」

《四重奏曲》と《五重奏曲》を一緒にの演奏会で弾くことはなかなか無い機会だそうだが、これら有名な曲を並べるだけではない。「バランスを考えながら、なかなか弾かないものも入れています」と語るように、その芸術に影響を与えた過去(たとえばバッハの編曲)、後世の作曲家によるアプローチ(たとえばドビュッシーによる編曲)なども織り込み、シューマンの魅力を立体的に感じてもらうというプログラミングが、いい。

「シューマンの《ペダル・ピアノのための6つのカノン風小品》は、カール・ライスター(世界的クラリネット奏者)が『凄くいい曲だから見てごらん』って教えてくださった作品です。とても詩的でありながらバッハを感じさせたり。そして今回演奏するこのドビュッシーが編曲した、2台ピアノ編曲版を教えてくれた居福健太郎君と共演します。地味に感じ

られるかも知れませんが、2台ピアノで弾くことによって対話が強調され魅力的です」

シューマン自身がヴァイオリンとピアノ用に編曲したバッハ(シャコンヌ)(もちろん元は《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番》)もユニークな選曲だ。「普通、無伴奏曲にピアノの伴奏つけるなんて考えないですけど(笑) ベースやハーモニーが強調されて面白いですよ」

日本に生まれながら、幼くして音楽を志してドイツに渡り、いまやドイツ語でものを考え、読み書きすることが自然という小菅 優にとって、シューマンは「まさに“自分の作曲家”と思えます」。

その憧憬に満ちた世界を愛しぬく小菅 優の「現在」、大切に愉しませていただくのではないかな。

Profile

小菅 優 こすげ ゆう (ピアノ)

高度なテクニックと美しい音色、深い楽曲理解と若き感性で現在最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。2005年カーネギーホールでのリサイタルでニューヨーク・デビュー、06年ザルツブルク音楽祭でリサイタル・デビュー、09年には小澤征爾指揮水戸室内管と共演するなど国内外でその活躍の場を広げている。これまでにソニーより9枚のCDをリリースしており、いずれも好評を博している。

榎本 大進 かしもと だいしん (ヴァイオリン)

1979年ロンドン生まれ。96年のロン＝ティボー国際音楽コンクール他、5つの権威ある国際コンクールで優勝。以来、著名指揮者・演奏家と共演を重ね、ソニーより3枚のCDをリリース。芸術選奨文部大臣新人賞等、受賞歴多数。また、赤穂国際音楽祭・姫路国際音楽祭で音楽監督を務める。2009年、ベルリン・フィルの第一コンサートマスターに内定。使用楽器は1674年製アンドレア・グルネリ。

佐藤 俊介 さとう しゅんすけ (ヴァイオリン)

1984年東京生まれ。父親の米国留学のため渡米。10歳でフィラデルフィア管弦楽団の学生コンクールに優勝して同楽団と共演したのを始め、北米で演奏活動を開始し、近年はヨーロッパを中心に活躍の場を広げている。ナミレコード及びユニバーサル・ミュージックからCDを4枚発売。最新盤の「24のカプリース」は高い評価を得ている。使用楽器は2007年パリ製シュテファン・フォン・ベア。

川本 嘉子 かわもと よしこ (ヴィオラ)

桐朋学園大学に学び、1989年、90年にはタンブルウッド音楽祭に招待を受けて参加。Grace B. Jackson 賞受賞。91年東京都交響楽団への入団をきっかけにヴァイオリンに転向し、99年から2002年の退団まで首席奏者を務める。1992年ジュネーブ国際コンクール・ヴィオラ部門最高位(1位なしの2位)、96年村松賞、97年7回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞受賞。東京藝術大学弦楽器科非常勤講師。

趙 静 Jing Zhao (チェロ)

北京生まれ。東京音楽大学付属高校に留学生特別奨学生として入学し、同大学及びベルリンのカラヤン・アカデミーを卒業。2005年、ミュンヘンARD国際コンクールチェロ部門にて第1位・新作の優れた解釈で与えられる賞・聴衆賞受賞。07年大晦日・08年元旦に北京大劇院で行われた小澤征爾指揮特別ガラ・コンサートに、レービヤランランなどと共に出演。ピクチャー・エンタテインメントより5枚のCDをリリース。

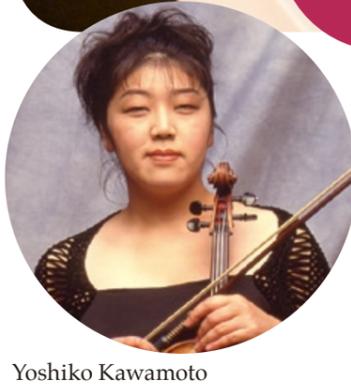
居福 健太郎 いふく けんたろう (ピアノ)

愛知県出身。東京藝術大学付属音楽高等学校、同大学音楽学部を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。修了時にベーゼンドルファー賞受賞。1999年浜松国際ピアノアカデミーコンクール第2位及び特別審査員賞受賞。2004年仙台国際音楽コンクールピアノ部門セミファイナリスト。07年東京音楽コンクールピアノ部門第3位。ソロのほか、室内楽や歌曲伴奏でも幅広いレパートリーを持つ。

●●●● MUSIC ●●●●

シリーズ 小菅 優の現在 Vol.2 アンサンブルの愉しみ

【日時】6月11日(金) 開演 19:00  
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 【出演】榎本大進、佐藤俊介(ヴァイオリン) 川本嘉子(ヴィオラ)  
 趙 静(チェロ) 小菅 優、居福健太郎(ピアノ)  
 【曲目】バッハ=シューマン:《無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番》BWV1004より  
 (シャコンヌ)(ヴァイオリンとピアノのための編曲版)  
 シューマン:ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品47  
 シューマン(ドビュッシー編曲):ペダル・ピアノのための6つのカノン風小品 作品56  
 (2台ピアノのための編曲版)  
 シューマン:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44  
 【チケット(税込)】  
 一般:正面席5,000円/バルコニー席4,000円/学生席(バルコニー席)2,000円  
 メンバース:正面席4,500円  
 【発売日】一般:2月6日(土) メンバース:1月30日(土)



Yoshiko Kawamoto



Shunské Sato  
 ©Gilles-Marie Zimmermann



Daishin Kashimoto  
 ©Matthias Creutziger



Jing Zhao  
 ©ピクチャー・エンタテインメント(株)



Kentaro Ifuku

50<sup>th</sup>

幸運だけでは築けない50年の重みと思い

「100人を聴く10年」と題して音楽ホールで展開された「ピアニスト100」の第1回の出演者にして51〜100回の音楽監督もつとめた中村絃子。「絢爛たる技巧」と「溢れる情感」と評され、つねに世界の第一線で活躍し続けた50年を、あなたの耳でぜひ確かめてほしい。



中村絃子

NAKAMURA HIROKO PIANO RECITAL

文=真嶋雄大 [音楽評論家]

中村絃子がデビュー 50周年を迎えた。ひとくちに50年というが、その歩みは並大抵ではない。彼女のピアニスト人生がスタートしたのは慶應義塾中等部3年在学中の1959年、第28回音楽コンクール(現日本音楽コンクール)において、史上最年少で第1位特賞を獲得したときである。それから彼女は中学生ながら夥しい数の演奏会に出演、翌年にはNHK交響楽団初の世界一周公演のソリストに抜擢され、華やかなピアニストとしての活動が始まったのである。

とは言え当時の音楽環境は、現代とは比べるべくもない状況だった。第二次世界大戦の敗戦から立ち直ろうとしていた日本は、この年皇太子(現天皇)のご成婚に沸き、新幹線の起工式や東京オリンピックの開催が決定、まさに高度経済社会に突入しようという過渡期であった。また若き小澤征爾が神戸港からスクーターでヨーロッパに渡航し、第9回プザンソン国際指揮者コンクールに日本人として初めて出場、優勝したのも同年である。

ただことクラシック音楽に関しては、まだまだ西洋崇拝主義が蔓延し、敬いつつ押し頂いて拝聴するという、宗教的雰囲気さえ伴った認識があった。即ち、音楽を楽しむのではなく、真面目に受け止めなければならないという風潮が浸透し、それが現在もクラシック音楽の普及にブレーキをかけていることは、否めない事実である。

### 感動がフィードバックする

ともあれそういった時代を、中村絃子はただ一途に、そして着実に歩んできた。その具体的な展開について、ひとつひとつ触れる必要があるまい。けれどもそのピアニズムは、常に日本のピアノ界をリードしてきたと言って差し支えない。もちろん50年の活動の中で、徐々に円熟の度合いを深めながら…。しかし彼女には、年月を経ても変わらずひとつの根幹がある。それは堅牢な構築観に立脚したロマンティズムである。

あるとき、ベートーヴェン《ピアノ・ソナタ第14番「月光」》を聴いた。よく知られた第1楽章では、大袈裟なアーティキュレーションを避け、幻想的というより淡々とした歩みと端正な趣で、かえって味わい深い佇まいを感じさせる。それは荒涼たる原野を彷徨した後には辿り着く、安堵と郷愁に満ちたような足取りでもある。このような表現は実に巧いし、音楽的な流れを創出する力量はやはり群を抜いている。リアルタイムで聴いたときより、コンサートが終わって帰途に着くとき、じんわりと感動がフィードバックしてくる。何となれば良いワインを飲んだ後に、恍惚とした芳香に身体全体が包まれるような感じであろうか。

また得意とするショパンでも、作品の内面に秘められている感情の吐露を見事に引き出して眼前に示してみせる手法は出色で、呈示され

た主題や楽想をもの見事に描き分けながら気品と典雅な叙情を湧き起こらせ、余韻<sup>レガト</sup>々たる美しさを表出するのである。

ソロとしてのみではない。かつて一世を風靡した伝説の「三千両トリオ」があった。中村絃子、海野義雄(ヴァイオリン)、堤剛(チェロ)という、当時若手を代表するビッグネームのトリオであり、1974年に結成した折は顔ぶれの意外性もあってセンセーショナルな話題を呼んだ。

千両役者が3人揃ったところから「三千両トリオ」と称されたが、7年間という活動期間の中、数々の名演を残して1981年に惜しまれつつ終止符を打った。その「三千両トリオ」が26年の時を経て復活、そのとき彼女は様式観をしっかりと踏まえながら生命力に満ちて躍動し、それでいてトリオの要としての役割を十全に担っていたのは鮮やかだった。

ともかく中村絃子の演奏は、聴くものを惹きつけてやまない。繊細な詩情とドラマティックな造形はもうひとつの彼女の美質でもあるが、透明度が高くかつ芯のあるタッチに目眩めくような色彩感を纏い、情熱的に高揚するかと思えば奥行き深い心象風景を紡ぐ。濃密なマイクロコスモスを描きながらその座標軸がぶれることは決してなく、真に音楽の核心を追求しているのである。

中村絃子は今でも進化している。だからこそ彼女の演奏に触れる度、新鮮な感動を発見するのだ。彼女は50年を振り返り、「ただひたすら、幸運でした」と述懐したが、彼女の好奇心は音楽のみに向いているのではない。社会、政治、経済、環境等、世界を取り巻くあらゆる情勢に対してグローバルな視点で大いなる関心を寄せている。

中村絃子というたったひとりのピアニストであり、しかし巨大な存在は、日本の音楽の未来にどんなグランド・デザインを描いているのだろうか。

#### Profile

中村絃子 なかもら ひろこ (ピアノ)

早くから天才少女として名高く、第28回音楽コンクールで第一位特賞を史上最年少で受賞、直ちにN響初の世界一周公演のソリストに抜擢され華やかにデビュー。以後、日本のピアニストの代名詞として、国内外3700回を超える演奏会を通じて聴衆を魅了している。近年は浜松国際ピアノコンクールの審査員を務めるなど、若手ピアニストの育成や紹介にも尽力している。2009年秋にはデビュー 50周年を迎え、全国ツアーや、デビュー 50周年記念アルバム(10枚組)の出版など、意欲的な活動を展開している。公式ホームページ <http://www.nakamura-hiroko.com>

●●●● MUSIC ●●●●

### 中村絃子 ピアノ・リサイタル

【日時】6月19日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第17番 二楽調 作品31-2「テンペスト」ムソルグスキー:組曲《展覧会の絵》ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般:正面席5,500円/バルコニー席4,000円/学生席(バルコニー席)2,000円  
メンバーズ:正面席5,000円

EVENT CALENDAR 2010.1.15-2010.3.31

1 January	
15 全	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 A:「青い山脈」 B:「また逢う日まで」 C:「野火」 D:「ぼんち」 上映時間 12:20A / 16:20B / 19:15C ※詳細は P.22にて
16 土	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 9:50D / 13:00B / 15:45C / 18:35A
17 日	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 9:50A / 14:20C / 17:45D ※14:20上映回終了後、映画評論家 田島良一氏によるアフタートークがあります。 <b>MUSIC</b> 埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・MARO・アンサンブル ～篠崎史紀とN響メンバーによるウィーンの調べ～ 開演 15:00 ※詳細は P.22にて
18 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
19 火	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	<b>MUSIC</b> 光の庭プロムナード・コンサート ～典雅なるバロック～ 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = ジャン = フィリップ・メルカルト(オルガン) 西谷尚己(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 曲目 = N.d. グリニ: レン・ドゥ・ティエリス・アン・タイユ J.S. バッハ: ヴィオラ・ダ・ガンバとクラヴィアのためのソナタ第1番 BWV1027 ほか <b>DANCE</b> 彩の国バレエ・ガラ フベニチュクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち 開演 15:00 ※詳細は P.10 ~ 11にて
24 日	<b>PLAY</b> 源氏語り五十四帖 第53回「手習」 開演 14:00 ※詳細は P.22にて <b>DANCE</b> 彩の国バレエ・ガラ フベニチュクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち 開演 15:00
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「ディア・ドクター」 上映時間 14:35 / 18:20 ※14:35上映回は、音声ガイドがかかります。 ※詳細は P.8 ~ 9にて
30 土	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「ディア・ドクター」 上映時間 9:50 / 13:15 / 16:15 / 19:30 <b>PLAY</b> 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~新春東西落語競演会 開演 14:00 ※詳細は P.22にて
31 日	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「ディア・ドクター」 上映時間 10:00 / 13:45 / 17:45 ※13:45上映回終了後、映画評論家 田島良一氏によるアフタートークがあります。
2 February	
1 月	
2 火	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	<b>DANCE</b> 池田扶美代+アラン・ブラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク 「ナイン・フィンガー Nine Finger」 開演 16:00 ※詳細は P.12にて ※公演終了後、出演者によるポスト・トークがあります。
7 日	<b>MUSIC</b> みんなのオルガン講座受講生発表会 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ <b>DANCE</b> 池田扶美代+アラン・ブラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク 「ナイン・フィンガー Nine Finger」 開演 16:00 ※公演終了後、出演者によるポスト・トークがあります。
8 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
9 火	
12 金	
13 土	<b>DANCE</b> ダンスセッション2010 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 ※詳細は財団ホームページにて
14 日	<b>DANCE</b> ダンスセッション2010 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場
15 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
16 火	
17 水	
18 木	
19 金	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「未来の食卓」 上映時間 10:20 / 13:30 / 16:20 / 19:20 ※詳細は P.8 ~ 9にて

20 土	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「未来の食卓」 上映時間 9:50 / 13:10 / 16:30 / 19:20 ※13:10上映回終了後、映画評論家 石子順氏によるアフタートークがあります。 <b>MUSIC</b> ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.12 フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ 開演 14:00 ※詳細は P.22にて
21 日	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「未来の食卓」 上映時間 9:50 / 13:10 / 16:30 ※13:10上映回終了後、米工房ひろおか 廣岡幸子氏によるアフタートークがあります。
22 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	<b>MUSIC</b> 光の庭プロムナード・コンサート ~舞い降りた天使~ 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = 飯沼 彩(オルガン) 富平安希子(ソプラノ) 曲目 = J.S. バッハ: 傷れみたまえ、おおまなる神よ BWV721 ほか
28 日	
3 March	
1 月	
2 火	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	<b>MUSIC</b> 音楽ワークショップ ピアノ・ワンダーランド 開演 14:00 ※要事前申込み ※詳細は財団ホームページにて
7 日	<b>MUSIC</b> 彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート ピアノ・キラキラ・おどあそび 開演 14:00 ※詳細は P.22にて
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00 ※詳細は P.4 ~ 7にて
12 金	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「人生に乾杯!」 上映時間 10:20 / 13:30 / 16:10 / 19:10 ※詳細は P.8 ~ 9にて
13 土	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「人生に乾杯!」 上映時間 9:50 / 13:00 / 15:40 / 18:30 <b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00 <b>DANCE</b> トニー・リッツィ 「エヴリ・ボディ・テルズ・ア・ストーリー」 開演 15:00 ※詳細は P.13にて
14 日	<b>CINEMA</b> 彩の国シネマスタジオ「人生に乾杯!」 上映時間 10:30 / 13:40 / 17:00 ※13:40上映回終了後、映写技師 鈴木文夫氏によるアフタートークがあります。 <b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00 <b>DANCE</b> トニー・リッツィ 「エヴリ・ボディ・テルズ・ア・ストーリー」 開演 15:00 <b>PLAY</b> 源氏語り五十四帖 第54回「夢浮橋」 開演 14:00 ※詳細は P.22にて
15 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
16 火	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
17 水	
18 木	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
19 金	
20 土	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00 <b>MUSIC</b> シリーズ 小菅 優の現在 Vol.1 デュオ & トリオ 開演 14:00 ※詳細は P.22にて
21 日	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
22 月・祝	
23 火	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
24 水	
25 木	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
26 金	
27 土	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
28 日	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00 <b>DANCE</b> ファビアン・プリオヴィュ リサーチワーク公開 開演 15:00 ※要事前申込み ※詳細は P.13、23にて
29 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
30 火	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00
31 水	<b>PLAY</b> 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 開演 13:00

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2010.3.15)

DANCE

トニー・リッツィ  
『Every Body Tells A Story エヴリ・ボディ・テルズ・ア・ストーリー』

チケット発売日  
一般:1月30日(土) メンバース:1月22日(金) 詳細は P.13にて

DANCE バットシェバ舞踊団『MAX マックス』

チケット発売日  
一般:1月30日(土) メンバース:1月22日(金) 詳細は P.14 ~ 15にて

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭  
～三遊亭小遊三と若手落語家競演会

春の四季彩亭は笑点でおなじみ三遊亭小遊三と次代を担う期待の若手落語家たちの競演会。どうぞお楽しみに。



チケット発売日  
一般:1月30日(土) メンバース:1月23日(土)

日時=4月18日(日) 開演 14:00  
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演 = 三遊亭小遊三 林家木久蔵 三遊亭遊喜 三遊亭王楽 ほか  
料金 = 一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円

PLAY 『ムサシ』 ロンドン・NYバージョン

チケット発売日  
一般:2月20日(土) メンバース:1月23日(土) ~ 2月1日(月) 詳細は P.7にて

MUSIC

シリーズ 小菅 優の現在 Vol.2 アンサンブルの愉しみ

チケット発売日  
一般:2月6日(土) メンバース:1月30日(土) 詳細は P.16 ~ 17にて

MUSIC

新日本フィルハーモニー交響楽団

充実した活動を続ける新日本フィルが  
相性抜群の音楽監督アルミンクの  
指揮で聴かせるベートーヴェンの名曲。



チケット発売日  
一般:2月6日(土) メンバース:1月30日(土)

日時=7月18日(日) 開演 15:00  
(指揮者によるプレコンサート・トーク 14:30 ~ 14:45)  
会場 = 埼玉会館 大ホール  
出演 = クリスティアン・アルミンク(指揮)  
南 紫音(ヴァイオリン)  
曲目 = モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 第4番「軍隊」  
ベートーヴェン: 交響曲第3番「英雄」ほか  
料金 = 一般: S席 6,000円 / A席 5,000円 / B席 4,000円 / 学生 B席 2,000円  
メンバース: S席 5,400円 / A席 4,500円 / B席 3,600円

[チケットの購入方法について]

財団チケットセンター

0570-064-939

10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ

期待を集める「未来の巨匠たち」によるピアノの競演。  
4年目を迎える今シーズンも国内外のきら星達が集います!

チケット発売日  
3回セット券 一般:2月20日(土) メンバース:2月11日(木・祝)  
1回券 Vol.13 上原彩子 一般:3月20日(土) メンバース:3月13日(土)  
※セット券の一般発売初日は窓口販売のみ。 ※Vol.14以降の1回券は順次発売いたします。

日時 = Vol.13 上原彩子 7月10日(土) 開演 15:00  
Vol.14 アレクセイ・ゴルラッチ 12月5日(日) 開演 15:00  
Vol.15 エフゲニー・スドピン 2011年1月22日(土) 開演 15:00  
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
料金 = 3回セット券 正面席 9,000円 / バルコニー席 7,500円  
1回券 一般: 正面席 3,500円 / バルコニー席 2,500円  
学生席(バルコニー席) 1,000円  
メンバース: 正面席 3,150円



©三浦典一

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『空気人形』

チケット発売日  
一般・メンバース:2月19日(金) 詳細は P.8 ~ 9にて

MUSIC

宮川彬良&アンサンブル・ベガ

「クインテット」でおなじみのアキラさんが  
埼玉会館にやってきます!  
笑いあり涙ありの70分公演。



チケット発売日  
一般:2月27日(土) メンバース:2月21日(日)

日時 = 5月2日(日) 開演 14:00 (終演予定 15:10)  
会場 = 埼玉会館 大ホール  
料金 = 大人:2,500円 子ども(3歳~中学生) 1,000円  
※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『パリ・オペラ座のすべて』

チケット発売日  
一般・メンバース:3月12日(金) 詳細は P.8 ~ 9にて

[窓口販売] ※休館日を除く  
・彩の国さいたま芸術劇場 10:00 ~ 19:00  
・埼玉会館 10:00 ~ 19:00 ・熊谷会館 10:00 ~ 17:00

[インターネット販売]  
財団ホームページ <http://www.saf.or.jp>  
メンバース優先予約は初日10時より、一般発売も初日10時より受付開始し、  
公演当日10時まで受付いたします。 ※WEB会員(無料)の登録が必要です。

発売中公演情報 (2010.1.15 ~)

PLAY

源氏語り五十四帖

日時 = 第53回「手習」1月24日(日)  
 第54回「夢浮橋」3月14日(日) 各回開演 14:00  
 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 出演 = 幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)  
 料金 = 全席指定 2,500円

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~新春東西落語競演会

日時 = 1月30日(土) 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 出演 = 桂米團治 柳家花緑 桂歌之助 春風亭一之輔 ※予定枚数終了いたしました。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾「ヘンリー六世」 詳細は P.4 ~7にて

DANCE

彩の国バレエ・ガラ  
 ブベニチェクとドレスデン国立歌劇場バレエ団の俊英たち

詳細は P.10 ~ 11にて

池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク  
 『ナイン・フィンガー Nine Finger』 詳細は P.12にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業  
 『青い山脈』(A) 『また逢う日まで』(B) 『野火』(C) 『ぼんち』(D)

日時 = 1月15日(金) 12:20A / 16:20B / 19:15C  
 16日(土) 9:50D / 13:00B / 15:45C / 18:35A  
 17日(日) 9:50A / 14:20C / 17:45D  
 ※17日(日) 14:20上映回終了後、映画評論家 田島良一氏によるアフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 料金 = 各上映 500円(小中高生、シニア同額) ※前売なし  
 主催:文化庁/東京国立近代美術館フィルムセンター  
 協力:コミュニティシネマ支援センター

彩の国シネマスタジオ 『ディア・ドクター』 詳細は P.8 ~ 9にて

彩の国シネマスタジオ 『未来の食卓』 詳細は P.8 ~ 9にて

彩の国シネマスタジオ 『人生に乾杯』 詳細は P.8 ~ 9にて

公演詳細は、財団ホームページ  
<http://www.saf.or.jp>にて

ACCESS MAP アクセスマップ



review 公演レビュー

小澤征爾&  
 新日本フィルハーモニー交響楽団

文=萩谷由喜子 [音楽評論家]

会場は音響的に理想の空間ではなかったが「小さくても巨を秘めたもの」と「大きくても緻密なもの」を対置させたマエストロお得意のプログラムの効果は絶大だ。

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番はオーケストラの人数を絞り、弦も管も楽器本来の音の美しさで聴かせる演奏に徹した。その抑え気味の音に凜とした芯が宿り、見かけの小編成の奥にあるものを感じさせる。ソリストは上原彰子。よく楽器を鳴らし、強い集中力でぐんぐんと弾き進んでいく。第1楽章のカデンツァは長大で難度の高いものが選ばれて、ソリストとしての貫禄充分。緩徐楽章ではオーケストラとの緊密な対話も聴かれ、フィナーレの歯切れもよい。彼女のこうしたパワー全開ぶりは、一見、凝縮され抑制されたオーケストラの対極のものにも映じるが、かえて互いを引き立てあってもいたようだ。

後半は俄然、見違えるような16型巨大オーケストラに変貌して、ブルックナーの第3番「ワグナー」。視覚効果からして目を奪われる。いよいよ小澤登場。うなりを伴う気合とともに、木管の空五度と弦の刻みにのったトランペット主題がその雄姿をあらわした。第1楽章は何ヶ所か休止のあるせいか、流れのよさを聴かせるよりも、各部の聴きどころや強弱の対比感などが前面に出されていた。祈りを感じさせる第2楽章はホルンの絶品のハーモニーのうちに結ばれ、後半のふたつの楽章は一気呵成の勢いで続く。管楽器からはオルガン的な音響も轟き、輝かしい二長調の終結部まで息もつかせぬオーラに満ちた演奏が繰り広げられた。



©加藤英弘

(2009年12月8日 埼玉会館 大ホール)

information インフォメーション

オルガンをまるごと体験！  
 ~みんなのオルガン講座2010~

普段あまり馴染みのないパイプオルガンという楽器。彩の国さいたま芸術劇場では、劇場所有のポジティブ・オルガンを使って、皆様にパイプオルガンに親しんでいただける講座を2006年より開始しました。オルガンのしくみや歴史についてのお話を聞くレクチャーや、レッスンを通して演奏を学ぶクラスがございます。ジワジワとパイプオルガンのファンを増やしているこの人気講座は、2010年度ももちろん開催！ふるってご応募ください！



©加藤英弘

開催スケジュール

- 【日時】●レクチャー 5月9日(日)
- レッスン 6月13日(日)、9月11日(土)、10月30日(土)、2011年1月15日(土)
- ※各レッスンの間に練習日を別途設定いたします。
- 発表会 2011年1月16日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場内(発表会は劇場内の情報プラザにて開催)

【受講料】レクチャー / 500円  
 レッスン/ソロ・クラス(受講1年目) 9,000円(テキスト代別)  
 アンサンブル・クラス(受講2年目) 10,000円

※応募詳細は、(財)埼玉県芸術文化振興財団 事業部 音楽担当 048-858-5506までお問合せいただくか、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp>をご覧ください。

information インフォメーション

ファビアン・プリオヴィユ  
 リサーチワーク公開



【内容】  
**■出演者オーディション**  
 リサーチに参加していただく俳優/ダンサーを募集しています。  
 【日時】3月4日(木) 13:30 ~ 18:30  
 【場所】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室  
 【対象】35 ~ 40歳程度の俳優/男性ダンサー/20 ~ 30歳程度の女性ダンサー(舞台経験があること。下記ワークショップおよびリサーチワーク公開に参加できること。)  
 ワークショップ:3月18日(木)~27日(土)  
 リサーチワーク公開:3月28日(日)  
 【応募締切】2月22日(月) 必着

**■リサーチワーク公開**  
 リサーチ最終日に創作過程を一般公開します。  
 【日時】3月28日(日) 開演 15:00  
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場  
 【定員】150名(入場無料。申込み多数の場合、先着順)  
 【申込締切】3月14日(日) 必着 ※未就学児の入場はご遠慮ください。  
 ※オーディション、ショウイングとともに、詳細、応募方法については、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> をご覧いただくか、下記問合せ先までお問合せください。  
 【問合せ先】〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1  
 (財)埼玉県芸術文化振興財団 事業部 舞踊担当 Tel.048-858-5506

information インフォメーション

**■施設利用休止のお知らせ**  
 彩の国さいたま芸術劇場は、2009年10月15日で開館15年を迎えることができました。皆様のご愛顧に深く感謝申し上げます。さて、当劇場におきましては、今後も皆様に安心して安全に施設をご利用いただくため、ホールの設備等の改修が見込まれております。このため、2011年2月1日から6月30日まで、ホール、稽古場、練習室のご利用を休止させていただきます。ご不便をおかけしますが、何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。  
 ※改修期間等に変更が生じた場合は、財団ホームページ等でお知らせいたします。  
 【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 管理課施設担当 Tel.048-858-5508

「ヘンリー六世」舞台プラン変更による  
 座席位置変更のお知らせ

当初の舞台プランでは、張り出し舞台のためA列を撤去し、B列を1列目、C列を2列目とした。通常の客席での公演を予定していましたが、舞台プランの変更により、B・C列が舞台側へ移動になりました。お席は通常劇場で用いております椅子をそのまま使用いたします。お客様には、チケットご購入後の変更になりましたこととお詫び申し上げますとともに、何卒、演出意図をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。  
 ※既にお買い求めいただいたチケットの変更はございません。お手持ちのチケットで入場いただけます。  
 【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 メンバース事務局 Tel.048-858-5507

■メンバースポイントご利用についてのお知らせ

メンバース会員規約の改正に伴い、チケット購入時のポイント加算は、2008年10月末で終了いたしました。お手持ちのポイントは、2010年3月末までご利用いただけます。ポイントの利用方法について詳しくは、下記問合せ先までお問合せください。  
 【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 メンバース事務局 Tel.048-858-5507

## ■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行  
(株)パシフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン  
(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務  
ゲレックス・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本彦彦／三国コカ・コーラボトリング(株)  
(株)ショーモン／埼玉スバル自動車(株)／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター  
不動産開発(株)／ピストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ／(有)プラネッツ／関東自動車(株)／日本ピストンリング(株)  
(株)クマクラ／(株)デサン／(株)グリーン企画社／(株)中島運輸／(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)  
(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ／丸美屋食品工業(株)／日立キャピタル(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サテリオ埼玉  
埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)東和銀行／医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット  
サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房  
(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台 H21.12.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

## 劇場に遊ぶ、劇場で出会う

### 第5回 【音楽ホール】

舞台中央にピアノが一台。604席の客席にはまだ誰もいない。無人の音楽ホールに一步足を踏み入れると、高窓からのやわらかな日差しの自然光(公演中は遮断)、凜として清澄な空気を肌に感じる。

ホールは、音響特性に優れているといわれている「シューボックス型」、まさに靴箱のような直方体で、2階にはバルコニー席も。高い天井とあいまって、残響時間は約2.0秒(満席時)を誇り、ホール全体が楽器となって、音に包まれるという言葉がぴったり。日本音響家協会が「音響家からみた使いやすいホール」の優良ホール100選にも選ばれている。

演奏家が登場し、心にしみいる音色にひたるお客さままで客席が満たされると、ホールの空気は一変する。このホールで何度も出演しているピアニストの小山実稚恵さんは「特に人が入ったときの響きのバランスが良い」(『ぶらあぼ』10月号)とおっしゃっているが、ソロも室内楽もほどよい響きが得られる。

ちなみに、春は3月の「彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート」、4月は「バッハ・コレギウム・ジャパン」を開催。コンサートホール・デビューのお子様も、じっくりバッハの音楽にひたりたい方も、どうぞ音楽ホールの扉を開けて、その雰囲気と音の素晴らしさを実感してみてくださいはいかがでしょうか。



#### 彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート ピアノ・キラキラ・おとあそび

3月7日(日) 14:00 出演＝中川賢一(ピアノ)  
料金＝大人1,000円 子ども(3歳～中学生)500円

#### バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》

4月3日(土) 16:00 指揮＝鈴木雅明  
料金＝一般：正面席9,000円 メンバーズ：正面席8,100円  
※バルコニー席は予定枚数終了